

地方都市でスポーツ産業を活性化させるには

S. Y, 〈国際③ゼミ〉

1.はじめに

スポーツ観戦は非常にメジャーな大衆娯楽となっており、大型の競技スポーツ大会の盛り上がりは凄まじいものとなっている。例えば、2023年度全国高校野球選手権大会(夏の甲子園)においては17日間で約60万人の人が詰めかけ、スポーツ選手は注目の的となっていた。しかし近年の少子高齢化により、とりわけ地方では若者人口が減少しているという現状がある。これにより、地方都市でのスポーツ産業の衰退が起こるのみならず、スポーツ競技人口の減少によって有望選手が都市部からのみ生まれるようになり、日本全体でのスポーツの盛り上がりにも悪影響を及ぼすのではないかと考えた。そこで、本研究では地方都市の野球リーグに着目し、地方都市でのスポーツ産業活性化のために必要な要素を明らかにすることを目的とする。

2.研究方法

まず、独立リーグのチームが存在する地域のなかでも特に人口減少が顕著な徳島県のスポーツに関する現状を明らかにする。続いて、地方都市に本拠地を置く独立リーグのなかで経営的に成功している球団について調べ、共通項をまとめた。次に、その結果から地方のスポーツチームが経営的に存続し、スポーツの競技人口を増やすための、地域におけるスポーツ注目度を上げる要素を考察し、まとめる。

3.結果

3-1徳島県の現状

徳島県ホームページによると、徳島県人口は2009年に785,491人だったが、2022年には702,735人と13年間で人口は8万人以上の減少がみられていて、年平均をとると6580.8人と、程度が著しいことがわかる。さらに、笹川スポーツ財団による先行調査(2016)によると、運動・スポーツ実施率が全国平均57.62%であることにに対し徳島県平均は51.47%と、低い傾向にあり、徳島県では比較的スポーツが活発でないことがわかる。

徳島インディゴソックス収支推移

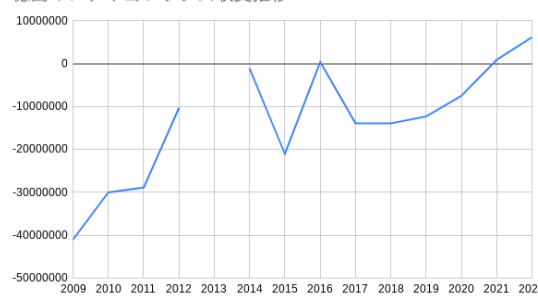


図1 収支推移(2009~2022)

観客動員数(2009~2022)

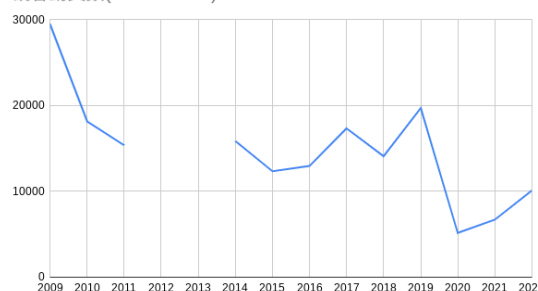


図2 観客動員数(2009~2022)

続いて徳島県徳島市に本拠地を置く野球チームである徳島インディゴソックスの現状について概論する。図1・図2から読み取れるように、収益自体は増加傾向にあるものの、観客動員数については2020年度からのCOVID-19の流行を考慮しても2009年度から減少しているという現状がある。

4.スポーツ産業について

4-1スポーツチームの存続

2022年11月、福井県民球団である福井ミラクルエレファントスが収益の確保・業績改善への見通しが立たず解散することとなり、地方でのスポーツ振興のためにはチームが収益上成功し、存続可能となることが不可欠であることが示された。そこで、単年黒字を達成している独立リーグのチームについてまとめたところ、次のような結果となった。

表1 黒字球団の要因・施策

チーム	黒字化要因	施策
BC新潟	■自主財源の確保 ■観客動員増加	■野球塾事業 ■球場での交流 ■地元食材のグルメ
BC信濃	■スポンサーの増加 ■支出削減	■消耗品管理 ■スポンサー営業の強化
BC高知	■スポンサーの大幅増加	■物販イベント ■スポンサー営業の強化 ■学生との交流

表1からスポーツチーム存続のためには以下の要素が必要であると考えられる。

①収益増加により利益を出す

i)スポンサーを増やす

ii)客数・客単価を増やす

②費用削減により利益を出す

iii)固定費を減らす

i)について

BCリーグのスポンサーは地元銀行等、その地域の企業が多い現状がある。そのため、スポンサー営業の際に優位にはたらくのは地域課題解決に取り組んでいることであると考えられる。すなわち、各チームの地域貢献活動によって評価をあげることが重要だと考えられる。

ii)について

客数増加に関しては、知名度を上げて地元客からの関心を集めることが必須であり、それにはその地域の人々との交流が効果的ではないかと考えられる。一例としては、野球塾による地域の子どもたちと関わりをつくることが挙げられる。客単価増加に関しては、グルメ出店やグッズ売上の向上が肝要である。グルメ出店については、BC新潟の例に則って地元食材を利用することで、地域からの関心にもつながるという利点が考えられる。

iii)について

経費に関しては、固定費を削減するという方向で考えると、物資やサービスによってチームを支援する企業・団体であるチームサプライヤー獲得が効果的であると考えられる。これは、i)で例に挙げたように地域貢献活動の実績がアピールになると考えられる。

また、チームが存続可能となった例外として愛媛BCがある。このチームは経営危機を迎えていたが、スポーツ教室等の地域貢献・活

性化が認められ、地域資源として支援を受けている。

4-2スポーツの注目度上昇

スポーツへの関心の獲得について黒字球団の施策から、BC新潟やBC高知のように、イベントや地元に関連した催し物により、観戦に付加価値をつけることが重要であると読み取れる。このことから、ボールパーク化による交流機会の増加やグルメ出店の積極誘致が効果的であると考えられる。

5.まとめ

スポーツ活性化に必要な要素を満たすためには、①地域密着や人との交流、慈善事業によって地域貢献をすることで、その地域からの注目度をあげ、地域資源としての支援やスポンサー営業を成功させること、②観戦に地域に関連した付加価値をつけることで、新規客を呼び込み、客数・客単価を向上させることが必要である。

6.今後の課題

選手のNPB輩出と観客動員等の経済的効果について、データが少なく調べ上げることができなかった。また、聞き取り調査やアンケート調査による根拠固めが不十分であった。これらは今後の課題とする。

7.主要参考文献

- [1]徳島県ホームページ, 徳島県の人口
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/statistics/mont-h/jinkou/>
- [2]笹川スポーツ財団, 都道府県の運動・スポーツ実施率データ：徳島県
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/data/prefecture_1016/tokushima.html
- [3]徳島インディゴソックスOfficial Site
<https://indigo-socks.com/>
- [4]高知ファイティングドッグス公式サイト
<https://kochi-fd.com>
- [5]信濃グランセローズ 公式サイト
<https://www.grandserows.co.jp/category/local>
- [6]オイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ
<https://www.niigata-albirex-bc.jp/>
- [7]四国アイランドリーグplus及び加盟4球団の2022年の経営報告
<https://www.iblj.co.jp/news/17889/>
- [8]海地修平(2013).高知ファイティングドッグスのスポーツマーケティング～観客増加メカニズム～